

平成29年度
ひらめき☆ときめきサイエンス～ようこそ大学の研究室へ～KAKENHI
(研究成果の社会還元・普及事業)
実施報告書

HT29236 プログラム名 ～保育者・小学校教員を目指す高校生にむけて～感覚をつないで表現力を身につけよう



開催日：平成29年12月9日

実施機関：京都女子大学

(実施場所) (発達教育学部G校舎1階)

実施代表者：山野 てるひ

(所属・職名) (発達教育学部・教授)

受講生：高校生2名

関連URL：<http://www.kyoto-wu.ac.jp/shakai/hirameki/index.html>

【実施内容】

○プログラムに留意した点

指導者としての豊かな表現力を養うには、五感を意識的に結びつける領域横断的な表現の積み重ねが必要であることを受講生自身の能動的な表現体験活動をとおして楽しみながら理解できるように、下記の5点について工夫を行った。

- ①研究成果である絵本教材をまとめた冊子を最初に配布し、感覚と感性の視点による具体的な絵本の表現について受講生が全体の見通しをもって関心を広げられるようにした。
- ②学部生に実習補助として参加してもらうことで、受講生と親密にコミュニケーションをとり大学の学びの雰囲気伝えてもらうようにした。
- ③受講生同士が協力して作品制作する設定により、自身と他者のアイデアを応答させて表現をまとめていく環境をつくった。
- ④受講生の音声表現を視覚化する独自のデジタルプログラムによって、個人の表現の変化や他者の表現との違いが明確になり、個人の学びが共有しやすいようにしたことは本プログラム最大の特徴である。
- ⑤映像表現の第一線で活躍する実施協力者から、お茶休憩時間に表現の総合性やデジタルプログラムについて話をしてもらい、表現の現場の空気を身近に感じられるようにした。

○当日のスケジュール

12:45-13:00 受付 G棟1階(G103)

13:00-13:20 開講式(オリエンテーション、科研費の説明)

13:20-14:10 実習①「絵本の音を声に出して感じよう」音読とワークシートによる表現要素の分析と発表

14:10-14:15 休憩

14:15-15:00 講義①「感覚を結ぶ音、色、形」表現要素間の緊密な関係性の読み取り

実習②「デジタルプログラムで表現しよう」実習①講義①を踏まえた音声表現の視覚化体験

15:00-15:20 実施協力者の話とお茶休憩

15:20-16:10 講義②「日本語の音象徴」日本語の母音「a」「i」「o」の音象徴についての考察

実習③「オノマトペから絵本の場面を描く」講習内容を通した4場面絵本の協同制作

16:10-16:20 休憩

16:20-16:45 創作絵本の発表と鑑賞、ディスカッション

16:45-17:00 修了式(アンケートの記入、未来博士号の授与)

17:00 終了・解散

○実施の様子

写真1



会場校舎前 看板

写真2



実習①「絵の音を声に出して感じよう」音読とワークシートによる分析と発表の様子

写真3



実習②「デジタルプログラムで表現しよう」プログラム操作方法の指導と音声表現の確認と共有の様子

写真4



写真5



創作絵本の発表と鑑賞風景

写真6



修了式(未来博士号の授与)

○事務局との協力体制と広報活動

- ・事務局が委託費の管理と支出報告書の確認、および学術振興会への連絡調整と提出書類の確認・修正を行った。
- ・教員が近隣高校・新聞社訪問時にチラシやポスターを持参して本事業について説明し、事務局では入学センターや広報部門と連携しホームページへの掲載や過去の参加校、近隣高校や関係高校に対し広報物を郵送したり、メールや電話などで連絡を行った。

- ・教員がオープンキャンパス及び進学説明会でアナウンスチラシを配布した。
- ・事務局が応募者への事前・当日対応(受付・連絡)を行った。

○安全配慮

- ・実施計画の9月17日当日に台風第18号襲来予報により、止むを得ず延期の判断を下して安全確保を優先した。予報通り当日午前中より暴風警報が発令されたため、混乱や事故を避けることができた。
- ・すべての実習で安全性の高い紙のワークシートやPC、描画材料を用いた。
- ・実習全体を通して4名の実習協力者(学部生)をつけ、受講生の安心や安全確保を図った。
- ・実施代表者、分担者、受講生を短期の保険に加入させ万一に備えた。

○今後の発展性、課題

受講生のアンケートでは本プログラムの内容は好評であったことから、本事業のデジタルプログラムについて更に技術的な精度を上げ、受講者の音声表現の視覚化、共有化を確実なものにしていきたい。台風の襲来という不測の事態による日程延期があり、高校の期末試験週間と重なるなど応募者の確保に苦慮することとなった。日程計画や広報の方法に課題が残り、大いに検討する必要がある。

【実施分担者】

ガハプカ 奈美 発達教育学部・教授

【実施協力者】 5 名

【事務担当者】

杉原 梨沙 教務部学部事務課・第一係長